

京都腎臓医会 新会長・副会長就任 ご挨拶

2022年新春

京都腎臓医会 会長

家原典之先生（京都市立病院 腎臓内科部長）



京都腎臓医会
Kyoto Kidney Physicians Society
Since 2018



が誇る貴重な財産であり、今後も当医会と両輪となって京都の腎臓病対策を進めていくことを期待します。また、当医会設立にあたり京都糖尿病医会（和田成雄会長）の会員諸氏よりただならぬご協力をいただいたことを深謝いたします。

京都腎臓医会は2018年に設立以降、武田会長のリーダーシップのもと、八田事務局長の尽力で9つのワーキンググループを作り精力的に課題解決に向けた取り組みをしています。私もこの路線を踏襲して行きたいと考えています。ただ、医学は日進月歩であり、我々医師には常に自己研鑽してゆく努力が要求されます。今は大きな問題である糖尿病性腎臓病もこれまでの治験の成績等を鑑みると、多角的な治療によって近い将来克服できるのではないかと個人的には期待しています。そうした希望的観測がある反面、腎硬化症というある意味腎臓寿命との戦いが待ち受けています。腎臓の生理・病態を最新の知見に基づいて今一度深く理解し、連携し、生活習慣も含めた総合対策を立てていくことが必要です。この医会が会員皆様のお役に立つ存在であるかどうかを常に自問しながら、変革していくべきところは迷わず断行し、京都の腎臓病診療を通じて患者さんに恩恵が届けられるよう努力して参ります。「変える勇気と変わらぬ信念」これをスローガンに頑張っておりまいますので、会員の皆様からのご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

この度、武田和夫前会長の後任として、京都腎臓医会会長を拝命しました京都市立病院の家原典之です。京都腎臓医会は、2018年に日本で初めての腎臓医会として発足しました。このような栄誉ある医会の代表を務めさせていただき、大変光栄に存じますと共に、今後他府県で組織される腎臓医会のお手本となる組織として、その重責に身の引き締まる思いです。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

京都腎臓医会の設立に向けた活動の出発点は2013年の「今後の京都の腎臓病診療を考える会」（玉垣・塚本・八田・八幡・家原が参加）（敬称略）まで遡ります。当時、医会設立は遙か遠い願望でしたが、同年に私と八田告先生が京都腎臓病総合対策推進協議会（1979年設立）に参画して、神田千秋先生・武田和夫先生をはじめとする重鎮の先生の協力を得て具体化していきました。医会設立に先立って、腎臓病にかかわる多職種で構成される京都腎臓・高血圧談話会が設立されました。八田先生の尽力もあって現在会員数350名程の大きな会に成長しています。談話会は腎臓病療養指導士などの人材育成の母体となるとともに、当医会の活動を補完してくれる頼もしい存在です。多職種からなる談話会は京都



京都腎臓医会 副会長

京都第二赤十字病院 糖尿病内分泌・腎臓・膠原病
内科 部長 長谷川 剛二先生



皆さま、明けましておめでとうございます。この度、京都腎臓医会の副会長を拝命いたしました。会員に多くの糖尿病専門医がいることが、京都腎臓医会の素晴らしい点であります。私が副会長のご指名をいただいたのは、糖尿病専門医としてのキャリアを生かし、

和田前副会長の仕事を引き継ぎ腎臓専門医と糖尿病専門医の架け橋として活動に貢献せよという仰せつげだと思っております。糖尿病性腎臓病対策は腎臓医療の重要課題であります。京都ではすでに優秀な医師が糖尿病性腎症、DKDの診療を行っております。この診療レベルをさらに上げるためには、多くの医師が糖尿病とCKDを適切に診療し、タイミングを逃すことなく専門医と連携することができるように、啓発活動を地道に続けていく必要があります。

2022年はポストコロナになるのでしょうか？いずれにせよウィズコロナで学んだことを生かした新しい時代の訪れを期待したいものです。よろしくご指導をお願い申し上げます。

京都大学医学部附属病院 腎臓内科 講師

横井秀基先生



この度、京都腎臓医会の副会長を拝命致しました京都大学腎臓内科学の横井秀基と申します。平素より京都腎臓医会の活動にご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。副会長の大役に身の引き締まる思いでございます。微力ながら先生方の日常診療のお役に立てるように努力して参る所存

でございます。

京都腎臓医会は、年1回の学術講演会の他、ワーキンググループ（WG）が中心となり、多岐に渡る講演会企

画や病診連携・病病連携など腎臓病に関わる医師間の啓発活動、知識向上、連携促進などを目的に活動しております。その中で、私自身は難病WGリーダーを担当しており、指定難病を始めとする難病診療の情報提供・講演会企画などに携わって参りました。この活動を通して難病診療については一般医家の先生方のニーズがあるにも関わらず、情報提供が難しい状況を改めて自覚して参りました。京都腎臓医会は会員の先生間の円滑な情報交換を推進できる組織であると同時に、京都府医師会の一専門医会として腎臓病を専門としていない先生方にも講演会などの企画案内や連携促進を提供できる組織でありたいと考えております。今後、京都腎臓医会のさらに幅広い活動のサポートに尽力して参りたいと思います。

最後に私自身の診療活動についてですが、京大病院で腎臓病全般を診ておりますが、特に高血圧と腎障害、ポドサイト障害（ネフローゼ症候群）、腹膜透析に力を入れており、慢性腎臓病では地域の先生方と併診も行い病診連携にも力を入れております。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

京都民医連中央病院 腎臓内科/リウマチ科科長
木下千春先生



副会長に任命頂きました京都民医連中央病院腎臓内科 木下千春です。ご指名頂いた時に「どうして私が？」と思ったのですが、家原会長からのご紹介で実務能力を買われたと知り、「働く」副会長を期待されているものと認識いたしました。

会の発足後より各WGが様々な活動をしていますが、透析にいたる患者を1人でも減らすということがWG活動の共通の最終目標かと思えます。コロナ禍の産物として、オンラインでの会議やセミナーが容易にできるようになり、お金をかけずにいろいろな活動が可能となっています。当医会の活動や役割が京都における腎臓病診療の質の向上につながり、透析にいたる患者を1人でも減らすことを願っています。私は会長、事務局を支えることは元より、皆様と共に「京都に腎臓医会があっよかった」と思っただけのよう盛り立てていけたらと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。